

文語日誌（平成二十八年一月十二日）

「渡部昇一の日本内閣史」（徳間書店、平成二十七年九月刊）を読む。

渡部昇一先生の令嬢御夫妻とはパリ駐在時代に親しくさせて頂きたるご縁あり。當時シャルルドゴール空港にて御名刺頂く機あり、爾來二十有餘年、先生（一九三〇年生れ）、八十五歳とならるるも益々矍鑠、潑刺におはするは、高齢化社會を生くる手本とすべし。先生の最新著作、極めて意欲的な内容にて、我が國歴代内閣の交代理由を丹念に調査し、併せて近き時代につきては自身の記憶せることも語る。

歴代内閣交代の理由は、左の如し。

- 初代 伊藤博文、 憲法制定に全力投球するため。
- 二代 黒田清隆、 外國人裁判官任用問題。
- 三代 山縣有朋、 朝鮮半島利益線確保のための軍事豫算計上。
- 四代 松方正義、 品川内相選舉大干渉。
- 五代 伊藤博文 (二次)、板垣・山縣の反發。
- 六代 松方正義 (二次)、地租増徴。
- 七代 伊藤博文 (三次)、自由黨と進歩黨の合併（憲政黨結成）。
- 八代 大隈重信、 星亨の憲政黨潰し。
- 九代 山縣有朋 (二次)、伊藤・星の政友會。
- 十代 伊藤博文 (四次)、渡邊藏相の首を切れず。
- 十一代 桂太郎、 ポーツマス條約不人氣。（在任最長一六八一日）
- 十二代 西園寺公望、 山縣の批判。
- 十三代 桂太郎 (二次)、關稅自主權回復を機に。
- 十四代 西園寺公望 (二次)、陸軍二個師團問題。
- 十五代 桂太郎 (三次)、上原陸相辭表。
- 十六代 山本權兵衛、 シーメンス事件。
- 十七代 大隈重信 (二次)、大浦内相選舉干渉。
- 十八代 寺内正毅、 米騒動。
- 十九代 原 敬、 暗殺。
- 二十代 高橋是清、 政友會内部對立。

二十一代 加藤友三郎、病死。

二十二代 山本權兵衛（二次）、虎の門事件（攝政宮狙撃）。

- 二十三代 清浦圭吾、 政友會の分裂。
- 二十四代 加藤高明、 病死。
- 二十五代 若槻禮次郎、 片岡藏相失言。
- 二十六代 田中義一、 鈴木喜三郎内相の選挙干渉。
- 二十七代 濱口雄幸、 統帥権干犯問題。東京驛頭にて兇弾に斃る。
- 二十八代 若槻禮次郎（二次）、安達内相の首を切れず。
- 二十九代 犬養毅、 五・一五事件、死亡。
- 三十代 齋藤實、 帝人事件。（でつち上げ）

- 三十一代 岡田啓介、 二・二六事件。
- 三十二代 廣田弘毅、 寺内陸相の腹切り問答。
- 三十三代 林銑十郎、 食ひ逃げ解散。
- 三十四代 近衛文麿、 シナ事變新段階。
- 三十五代 平沼騏一郎、 歐州の天地複雑怪奇。
- 三十六代 阿部信行、 爲すことなし。
- 三十七代 米内光正、 畑陸軍大臣辭表。
- 三十八代 近衛文麿 （二次）、松岡外相を切るため。
- 三十九代 近衛文麿 （三次）、日米頂上會談成立せず。ゾルゲ事件發覺が總辭職の因となる。

四十代 東條英機、 岸國務大臣の辭任拒否。大東亞戰爭戦局不振。

四十一代 小磯國昭、 南京政府高官を仲介役とする案への反撥。

四十二代 鈴木貫太郎、 終戦。

今はインターネットにて調ぶること容易なる内容にはあれど、改めて歴史を振り返るよき機会となるらむ。渡部昇一先生によらば、國史は無数の水滴の中に虹を見むとする行爲に似て居る由。

なほ、十六代山本権兵衛内閣時に陸海軍大臣の現役武官制を廢止したる陸軍大臣木越安綱（小生同期F君の親類）の勇氣を絶賛したる箇所は特に印象に残る。（三十二代廣田弘毅時代に現役武官制を復活したる失敗、肝に銘ずべし。）

（平成二十八年二月十二日受附）